

突然の病気やケガ



判断できない

小児はこちら

救急安心センターおおさか

#7119 または 06-6582-7119 開設時間：24時間365日

小児救急支援アプリ



医師の支援体制のもと看護師が救急医療相談や、症状に応じた救急病院を案内します。

お子様の突然の病気やケガで困ったときに「緊急性」を判断し、症状に応じた近くの医療機関を地図に表示します。

急病や事故に遭遇



応急手当がわからない 自信がない

救命サポートアプリ



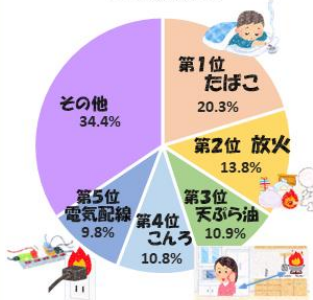
いざというときに応急手当が実施できるよう、音声と映像で心臓蘇生法を手助けします。成人だけでなく小児・乳児にも対応しています。

住まいの防火・防災 リーフレット



住宅での火災

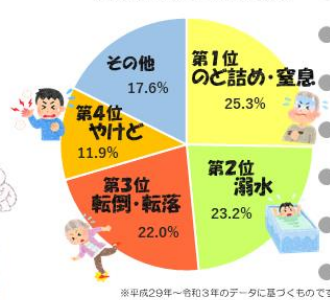
住宅火災原因



住宅火災による死者の8割が高齢者です！

住宅での事故

重症事故原因 (急病を除く)



救急事故の約半数が住宅で発生しています！

大阪市消防局では、消防職員があなたのお宅を訪問(ご本人の同意が必要)し、7口の視点から防火・防災に関するアドバイスをを行います！



防火・防災について、何をしたらいいかわからない...

あのお宅、火事になりそうで危ないねん！ 消防にみてもらた方がいいんちゃう？



そんな時は...

消防職員による住まいの防火・防災診断



ご希望の方は、お住まいの区の消防署へご連絡を！

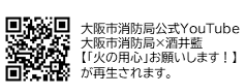
詳細はこちらをご覧ください

火災予防対策

～火災を早く知るために～

① 住宅用火災警報器

- ◆消防法により、すべての住宅への設置が義務付けられています。
◆設置場所は寝室、台所、条件により階段、廊下にも必要です。
◆定期的な点検し、10年を目安に交換しましょう。
◆作動した警報器から他の警報器へ連動させて警報を行うものやCO(一酸化炭素)を検知できるものもあります。



大阪市消防局公式YouTube 大阪市消防局×酒井監【火の用心】お願いします！が再生されます。

～火災を広げないために～

② 防災品

- ◆寝具やカーテン、布製ブラインド、じゅうたん等は、燃えにくい性能(防火性能)を有するものを使用しましょう。



防災品のラベル例

～火災を消すために～

③ 住宅用消火器

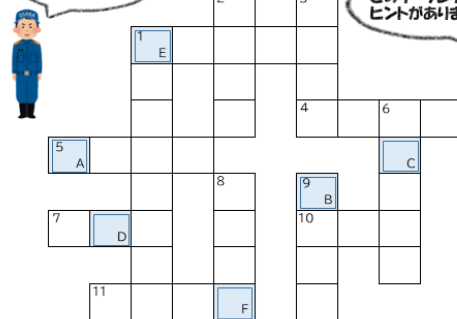
- ◆色・デザインが豊富で、好みにあったものを選びます。
◆軽量でホースがないものもあり、操作が簡単です。
◆ホームセンターやインターネット通販等で購入できます。
◆定期的な点検し、5年を目安に交換しましょう。



消防局見学ツアーが当たる！

クロスワード・パズルに挑戦しよう！

カタカで記入してください。



このリーフレット内にヒントがあります。

「 A B C D E F 」 お願いします！

タテのかぎ

- 1 ○○○○○○○○による死者の8割が高齢者 ヒント！住宅での火災
2 燃えにくい性能のことを○○○○性能 ヒント！火災予防対策②
3 救命サポートアプリは、音声と映像で○○○蘇生法をサポートする ヒント！こんなとき、どうする？
6 火を消す設備は「住宅用○○○○」 ヒント！火災予防対策③
8 突然の病気やケガで困ったときに電話するのは、救急○○○○センターおおさか ヒント！こんなとき、どうする？
9 子どもの手の届かないところに置くのは、熱い○○○○やホット ヒント！事故予防対策④

ヨコのかぎ

- 1 住宅用火災警報器の交換サイクルは？ ヒント！火災予防対策①
4 入浴を控えた方がいいのは、○○○後！ ヒント！事故予防対策②
5 冬は脱衣所をこれで温めておこう ヒント！事故予防対策②
7 住宅火災原因第2位 ヒント！住宅での火災
10 子どもが誤って口にこれいそうなのは○○○に置かない ヒント！事故予防対策①
11 熱中症防止のため、こまめに○○○・塩分を補給しましょう ヒント！事故予防対策⑤

正解者の中から抽選で、消防局見学ツアーにご招待します！

消防局見学ツアーでは、119番通報を着信している「指令情報センター」の見学や、様々な消防車や資器材の展示、装備の着装など体験できます。



詳細や応募はこちらから

事故予防対策

① のど詰め・窒息を防ぐために

- ◆もちやパンなど、のどに詰まりやすいものは小さく切って食べる。
◆硬貨やスーパーボールなど、子どもが誤って口に入れそうなものは身近に置かない。

② 風呂場での事故を防ぐために

- ◆体調が万全でない時や飲酒後は入浴を控える。
◆冬はヒーターやシャワーなどで脱衣所や浴室を温めておく。
◆小さな子どもは目を離さない。

③ 転倒・転落を防ぐために

- ◆部屋の中は段差を少なくする。
◆床に新聞紙などのすべりやすいものを置かない。
◆階段まわりは明るく、すべり止めや手すりをつける。
◆小さな子どもがいる家庭では、ベランダや出窓の近くに踏み台になるようなものを置かない。

④ やけどを防ぐために

- ◆熱い飲み物やポットなどは子どもの手の届かないところに置く。
◆こんろを使う時は袖や裾が広がっている衣服を着ない。

⑤ 熱中症を防ぐために

- ◆こまめに水分・塩分を補給する。
◆がまんせず、エアコンなどを積極的に使用する。